

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第109号 〔2018年8、9月合併号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第109号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



## メソトマンスリー



【メソト＝齊藤 つばさ】

## 最近のメソット

JAM スタディーツアーが開催されました！

今年はA日程（8月5日から8月10日）とB日程（8月26日から8月31日）の2回を行い、合計23名と多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

ツアーの内容は、

- ・メータオ・クリニックの見学とシンシア医師との座談会
- ・移民学校（HOPE校）でメータオ・クリニックの学校保健部門のスタッフによる健康教育活動の見学と生徒たちとの交流
- ・移民学校（CDC校）の音楽クラブ訪問、生徒たちの演奏見学と交流
- ・難民画家・マウンマウンティン氏との夕食会
- ・ごみ山やミャワディ（ミャンマー側の国境の町）の見学などです。

また、A日程では難民キャンプの訪問、B日程ではJAM代表からの国際保健に関するワークショップが行われました。





写真1：難民キャンプ内の図書館活動見学の様子



写真2：ワークショップの様子

参加者のみなさんからは

「参加する前は、難民と移民の違いもよく分かっていなかったけど、ツアーを通して実際に現地の人々の体験談を聞くことで、生きていく上での苦労などを具体的に知ることが出来た。」  
「テレビなどでごみ山の映像は見たことがあったが、臭いや音などを五感で感じ、テレビで見た時よりももっと深刻な問題だと感じた。」

「メソト側（タイ）だけでなくミャワディ側（ミャンマー）も訪問したことで、2国間の雰囲気の違いなども直接感じる事ができて良かった。」

「実際にみることで日本との比較ができた。このような状況でも人が実際に生活しているという状況を友人などに伝え、たくさんの人に知ってほしいと思った。」

「JAMの現地での活動がどのようにメータオ・クリニックのサービス向上に繋がっているか知ることが出来た。」等の感想がありました。



私自身も、大学4年生の時に JAM のスタディーツアーへ参加し現地の状況を生で見て、とても大切な活動だと感じ、JAM の活動に継続的に関わるようになりました。今回、みなさんとスタディーツアーをご一緒し、そのときの体験や感動をまた思い出しました。参加者のみなさんとも今回のツアーだけでなく、今後の報告会やイベント、その他でもまたお会い出来たらと思います。



写真3：A 日程参加者のみなさんとシンシア医師



写真4：B 日程参加者のみなさんと CDC 校音楽クラブ

さて、国際保健のワークショップの中で「喜ばれる寄付と必要な寄付について」というお話がありました。私もこの一年を通して必要な寄付をする大切さについて感じたことをお伝えしたいなと思います。

メータオ・クリニックにはいろいろな国・場所からの物品の寄付が届きます。しかし、中にはクリニックに必要なものもあり困ってしまうこともあります。

私が印象に残っているものは、クリニックでは特に使用されていない脊椎麻酔用の針が届いたことです。（\*帝王切開などの背中での麻酔等で使用される針で、背中に使うため、採血に



使う針よりも長いです。)

スタッフから採血に使えないかと聞かれましたが、通常の針の在庫があるのに、寄付が届いたからとりあえず何かに使ってみようかな？と、わざわざ使用用途に適していない使い方をするのは患者へのリスクが高く、問題です。

また、「それではクリニックでは使わないから捨てよう」とした時ですが、針のような医療用物品は普通のごみのように捨てることができないので、医療用物品の破棄のためのコストがかかります。せっかく寄付として送られてきたものが特に必要なく、しかも破棄にコストがかかるとなると、どうしたものか？と、とても困ってしまいます。これについては、寄付する側が、「針を寄付したいがどうか？」と物品を送る前にクリニックへ連絡をいれていれば、その寄付者も本当に必要なところへ送れたのではないかと感じます。

クリニックで働いていると、「〇〇が必要だから（または不足しているから）、JAMで購入出来ないか？」といろいろな部門のスタッフからよく言われます。例えば、記録用のノートがない・患者さんのズボンがない・患者さんの靴がない・はさみが切れなくなった・血圧計が壊れて新しいものが必要になったといろいろなものを言われます。

現場で働いているスタッフからの意見は、私一人では気が付かない部分もあり、とても大切な情報です。しかし、よく話を聞いてみると、各病棟にある予算で定期的に購入しているもの、倉庫に予備の在庫があるもの、患者の家族が購入できるもの、新しく購入しなくても他のもので代用できるなど本当には購入する必要がない場合も多々あります。若いスタッフは、シニアのスタッフに意見を言うのが苦手で直接、私に伝えてきます。若いスタッフから「必要なものだ」と言われて私も必要だなと思ったときに、シニアのスタッフに伝えると、「〇〇なら倉庫にあるよ」とすぐに出てくることもあります。

「必要だから買って！」といわれて、何も考えず（誰とも共有せず）に言われた希望通りにそのまま購入していくのではなく、現場の問題点を把握し本当に必要なのか考え、他のスタッフに共有するのも大切な役割だと感じます。8月から看護スタッフにもスーパーバイザー（日本の病棟の主任の様なもの）の役割が出来ました。今後、病棟にある物品の管理や必要なものの判断を行っていけるようにサポートしていく必要があると感じます。

## 国内から

【東京＝西尾】

こんにちは。いつもJAMへのご支援ありがとうございます。

事務局ボランティアの西尾です。現在はNGO職員として、ミャンマーでの保健医療プロジェクトを担当しています。昨秋のグローバルヘルス合同学会でJAMの皆さんと出会い、楽しそうな空気に誘われて、スタッフの仲間入りを果たしました。今後ともよろしく願いいたします。

さて、9月に入り、ようやくあの殺人的な暑さも和らいできました。

今年は猛暑、豪雨、台風、地震と、立て続けに自然災害に見舞われ、心休まることのない夏でした。テレビの映像に心を痛めながらも、仕事や家庭の事情などで現地に駆けつけることができず、歯がゆい思いをされた方も多かったのではないかと思います。

「何かしたい、でも今は動けない」、そんな風に悶々とした時、私はあるバイオリニストの言葉を思い出します。それは東日本大震災の直後、何かできないかと必死で情報を探していた時に、インターネット上で見つけた短い書き込みでした。



『今はまだ、私にできることはないと思う。でもいつかまた音楽が必要になったときのために、今は一生懸命バイオリンを練習します』自分には何もできないと無力感に浸ったり、仕方がないと諦めたりする代わりに、今この場所のできる何かを探し、真摯にやり続ける。そんな向き合い方があることを知りました。

お盆休みに岡山県の真備町（西日本豪雨災害の被災地）に、泥かきボランティアに行きました。同じチームの中に、東京のオフィス街で働くサラリーマンがいました。彼は、本当は被災後すぐにでも駆けつけたかったけれど、仕事で動けなかったとのこと。でもいつか現場に行ったらそこで最大限、役に立てるように「先月はジムに通ったんですよ」と、笑って話してくれました。そのひたむきな思いが表れるような力仕事ぶりでした。

もう一つ、災害支援の心持ちの話。

以前、私は東日本大震災の被災地で医療支援活動をしていたのですが、一年ほど経った頃に地元へ帰ることを決めました。自分が必要とされていることをわかっていながらその地を離れることは、後ろめたく申し訳ない思いでした。しかし、仲良くなった地元の人たちは口々に「忘れないでいてくれたらいい」と言うのです。正直なところ、私にはその真意がわかりませんでした。「そりゃもちろん忘れないけど、それが何になるんだろう？遠くから被災地を思って祈ったところで、現実的には何も変わらないじゃない」と。そうしたら、ある被災者の方がこんな風に話してくれました。「復興は長い道のり。マラソンで例えれば 42.195km。ランナーはもちろん、地元民である俺たちだ。ゴールまで走り切るまでには、もうダメだと思ったり、足が止まってしまったりすることもあると思う。だけどその時に沿道からの声援があれば、俺たちはまた頑張れる。」

忘れない、ということは、沿道から声援を送り、あなたたちを見ている、と示すこと。それは被災地を再訪することかもしれないし、募金をすることかもしれないし、SNS でメッセージを発することかもしれない。どんな方法であれ、被災者の方々に「自分たちを思ってくれる人がいる」と伝えられたら、それが復興のパワーになるとわかったのです。

立て続けの災害で心が疲弊してしまう前に、自身の無力感に苛まれる前に、本当に今ここで自分にできることはないのか、探してみようと思います。小さいことかもしれないけど、被災地に心寄せられる何かは、きっとあると思うのです。

## 編集後記

今回は、スタディツアーがあったため、8月号と9月号を合併させていただきました。2か月があつという間に過ぎてしまいました。たまたま夕飯時にポーッと見たテレビ番組によると、「月日が流れるのが早く感じるのは、ときめきが少ないから」だそうです。日々ときめきが少ないのか・・・と思いつつ、そんなことはないような・・・とも思いたい今日この頃です。

## 次号の予定

次号は、10月中～下旬ごろ配信の予定です。

インスタ、ツイッター、ホームページも、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。



